

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		じゃんぷステラ				公表日	令和8年3月30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。			それぞれの特性に応じて活動場所を分けています		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。			生活空間は見てわかりやすいように整えており、危険な場所には保護材をつけるなど、安全に配慮した環境づくりを行っています。	バリアフリー化には至っていませんが、生活空間はこどもにとって分かりやすくなっています	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。			毎日の清掃・消毒と換気を徹底し、衛生的で安心して過ごせる環境を整えています。感染症対策として定期的な衛生チェックも行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。			子どもの気持ちが高ぶった際に落ち着いて過ごせるスペースを設けており、必要に応じて個別に利用できる環境を整えています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。			振り返りは翌日のミーティングで行っています。PDCAに沿って改善点を共有し、日々の支援に反映しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。			保護者の方からのご意見は、その都度職員で共有し、より良い支援につなげています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。			定期的な会議を通して職員の意見を共有し、支援方法の見直しや業務改善につなげています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				現在外部評価は行っておりませんが、今後の改善に生かせるよう、方法を検討しているところです。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。			定期的に研修を実施し、支援の質の向上や知識の共有を図っています。		
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。			子どもの年齢や発達、得意・苦手に合わせて、多様な経験ができるよう支援プログラムを計画しており、5領域のバランスにも配慮しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。			子ども・保護者への面談や日々の観察を通してアセスメントを実施し、ニーズや課題を客観的に整理した上で計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。			計画内容は職員全体で話し合って共通理解を深め、必要に応じて見直ししながら、全員が最新の内容を把握できるようにしています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。			個別支援計画は職員全員が確認できるよう共有し、支援の際には内容を随時見直ししながら取り組んでいます。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。			日々の支援記録と、独自のアセスメントを用いて子どもの状況を多面的に把握し、個別支援計画に反映しています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。			4つの視点を参考に、子どもの状況に合わせて必要な項目を整理し、具体的な支援につながる計画づくりを行っています。	地域とのつながりを計画に取り入れる部分がやや弱いため、関係機関との情報交換を通して、今後少しずつ充実させていければと考えています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。			事業所間で協力して活動プログラムを検討し、子どもの興味や発達に合った企画づくりに取り組んでいます。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。			新しい活動や季節に合わせたプログラムを取り入れながら、活動の幅を広げる工夫をしています。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		子どもの状態に応じて個別と集団の活動を組み合わせ、様子を見ながら柔軟に支援内容を調整しています。	年齢等を考慮し小集団での活動も行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		支援開始前に職員間で打ち合わせを行い、役割分担や注意事項を共有し、連携して安全な支援を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		支援終了後には職員間で必ず振り返りを行い、気づいた点を共有して翌日に持ち越さないよう改善に努めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		日々の支援記録を丁寧に残し、必要に応じて情報を共有しながら支援の見直しに役立てています。複数の職員で視点を共有し、記録の偏りを防ぐよう心がけています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		3か月ごとにモニタリングを行い、達成状況を確認しながら必要な見直しを進めています。また、保護者からの意見も踏まえて改善に取り組んでいます。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。		4つの基本活動をバランスよく取り入れ、子どもの興味や得意に合わせて活動内容を工夫しています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。		子どもが自分で選択できるよう、視覚的支援や声かけを工夫し、選択の場面を意図的に作ることで自己決定の機会を増やしています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加し、子どもの状況を共有しながら必要な情報提供を行っています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		必要に応じて保護者からの依頼を受け、学校など関係機関と連絡を取りながら情報共有を行っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		保護者を通して学校の行事予定や下校時刻などの情報を把握し、担当職員と共有できるよう努めています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		就学前に利用していた園や事業所と必要に応じて情報交換を行い、連携した支援につなげるよう心がけています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			現在、卒業や移行に該当するお子さんはいません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		児童センターや公園の活動を利用し、地域の子どもたちと触れ合う機会を設けています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。			協議会は時間帯の関係で参加が難しいことが多いですが、必要な情報については、今後確認しやすい方法を検討していきたいと考えています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		連絡ノートや送迎時のやり取りに加えて、必要に応じた連絡手段を使って保護者と情報を共有しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		契約時、変更時に説明しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		子どもや保護者の意向を面談で確認し、計画に反映しています。意思を伝えにくい場合は、表情や行動から気持ちを汲み取るようにしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		面談時に行なっています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		子育てに関するご相談には、その都度お話を伺い、必要に応じて面談などで一緒に対応を考えています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。				交流の機会については、参加しやすい形を今後検討していきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			苦情やご意見にはできるだけ早く対応できるよう努めており、内容は職員間で共有しながら改善につなげています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。			毎月、通信とプログラムを発行し、わかりやすい形で情報をお知らせしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。			十分配慮しております	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。			当日の活動を視覚的に示し、子どもが理解しやすいよう配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。				行事の開催はまだありませんが、今後、参加しやすい形での交流を検討していきたいと考えています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。				マニュアルや訓練内容は毎年見直し、より実効性のある内容にできるよう工夫していきたいと考えています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。			定期的に訓練を行っています	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。			「服薬や健康に関する情報を事前に確認し、職員で共有しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			必要な研修や訓練を定期的に行い、安全確保の意識向上に努めています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。			「ヒヤリハット事例は職員間で共有し、原因分析と再発防止策の検討を行い、安全性の向上につなげています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。			外部研修、事業所内研修を行っています	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。			身体拘束が必要となる場合は、面談時に説明し同意をいただいています。該当時は個別支援計画に記載の上、適切に対応しています。		